

1 連結業績概要 (① 前期比)

株式会社 淀川製鋼所

(単位: 億円(千万円未満切捨))

	当上期	前上期	増減		特記事項
			増減	増減率	
売上高	693.9	782.6	△88.6	△11.3%	<売上> 日本国内・海外ともに市況は停滞傾向。新型コロナウイルスの影響もあり、減収。
(売上総利益)	116.0	115.1	0.8		
(販管費)	85.4	86.1	△0.6		
営業利益	30.5	29.0	1.4	5.1%	<営業利益> コスト削減に努め前期同水準の営業利益を確保 <営業外損益> 前期: 運用商品評価損計上
(営業外収益)	12.9	11.4	1.5		
(営業外費用)	1.4	7.4	△5.9		
経常利益	42.0	33.1	8.9	27.1%	<特別損失> 前期: 投資有価証券評価損計上
(特別利益)	0.1	0	0.1		
(特別損失)	0.4	4.3	△3.8		
税引前利益	41.7	28.7	12.9	45.1%	
(法人税等)	13.1	9.5	3.5		
(非支配株主利益)	-0.4	-0.7	0.2		
親会社株主利益	29.1	19.9	9.1	45.8%	<包括利益> 当期: 四半期純利益 28億、その他有価証券評価差額金 58億、為替換算調整勘定 △2億ほか
(EPS(円/株))	99.75円	67.80円	31.95		
包括利益	85.6	14.5	71.0		

2 連結業績概要 (② 予想比)

株式会社 淀川製鋼所

(単位: 億円(千万円未満切捨))

連結上期 (億円)	実績	予想 (2020年8月開示)	差異
売上高	693.9	690.0	3.9
営業利益	30.5	27.0	3.5
経常利益	42.0	37.0	5.0
親会社株主利益	29.1	25.0	4.1

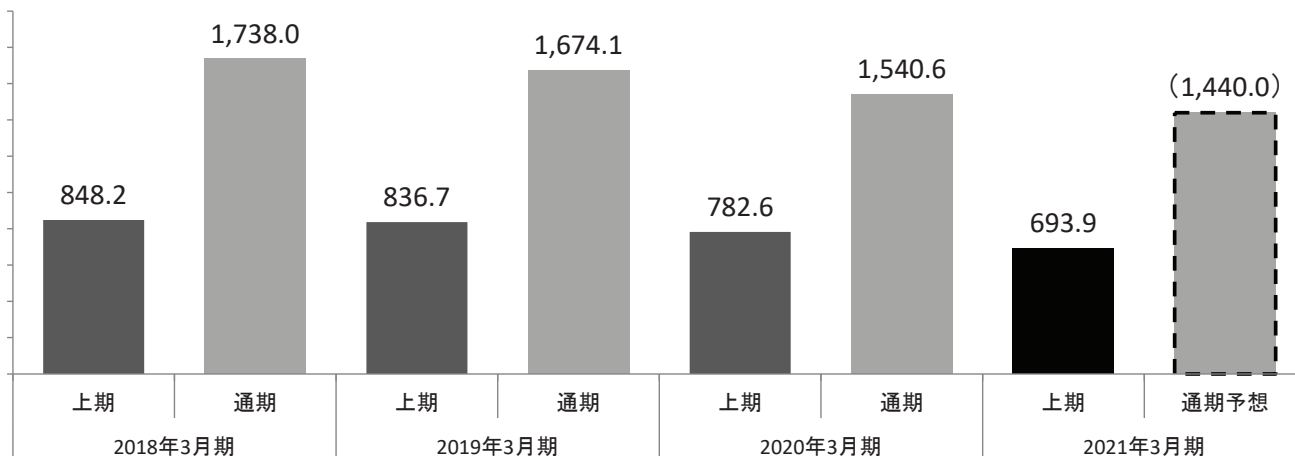
【特記事項】

- 日本国内の販売は期間の終わりに新型コロナ影響が改善

3 連結売上推移

株式会社 淀川製鋼所

(単位：億円(千万円未満切捨))



【減収 88億の主な内訳】

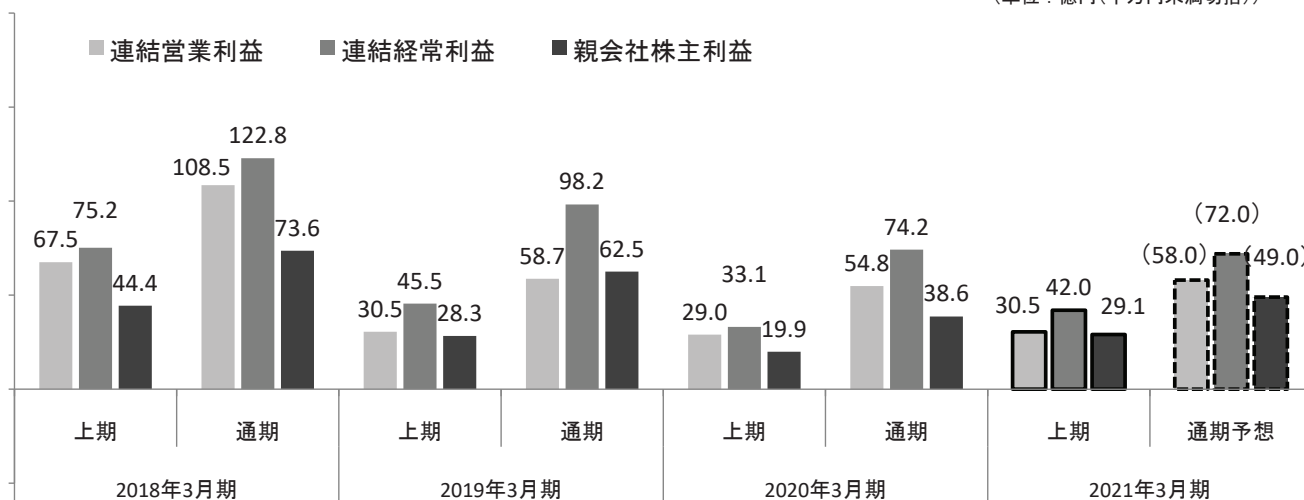
- 淀鋼△67億 (534→467)
主に鋼板商品で新型コロナ影響。外装建材・エクステリアは堅調に推移
- 台湾SYSCO社△17億 (167→150)
台湾国内カラー鋼板が減少。輸出も各地域保護主義政策と新型コロナ影響で振るわず
- 中国YSS社+6億 (24→30)
春節後は新型コロナ影響大なるも4月以降は急速に回復
- タイPPT社+0.1億 (16.5→16.7)
1Qは前期比大幅改善なるも2Qに新型コロナの影響大



4 連結損益推移

株式会社 淀川製鋼所

(単位：億円(千万円未満切捨))



【営業利益 1.4億増益の主な内訳】

- 淀鋼+6億 (29→35)
販売減なるもコスト削減に努め増益
- SYSCO社△3.2億 (2.3→△0.8)
採算の良いカラー鋼板の販売量が減少し営業損失
- YSS社△0.3 (△4.3→△4.6)
4月以降急速に改善するも2~3月の新型コロナ影響が大きく前期なみの損失
- PPT社+1.7億 (△2.0→△0.2)
1Qは営業赤字だったが2Qに新型コロナ影響を大きく受けた



5 セグメント概況

株式会社 淀川製鋼所

(単位:億円(千万円未満切捨))

	売上高			セグメント利益		
	当上期	前上期	増減率	当上期	前上期	増減率
鋼板関連	640.6	724.8	△11.6%	32.5	30.3	7.5%
ロール	14.0	14.3	△2.0%	△1.3	△1.6	—%
グレーチング	15.9	17.1	△7.1%	0.4	0.3	51.3%
不動産	6.1	6.0	2.5%	4.3	4.2	3.4%
報告セグメント計	676.8	762.4	△11.2%	36.1	33.2	8.6%
その他	17.0	20.2	△15.4%	0.5	1.7	△68.0%
合計	693.9	782.6	△11.3%	36.6	35.0	4.8%
調整額				△6.1	△5.9	
PL計上額	693.9	782.6	△11.3%	30.5	29.0	5.1%

6 連結財政状態概要

株式会社 淀川製鋼所

(単位: 億円(千万円未満切捨))

	当上期末	前期末	増減		特記事項
			増減	増減率	
総資産	2,111.6	2,011.2	100.4	5.0%	<資産> (流動) 運転資本減少、運用商品減少 などで現預金が増加 (固定) 設備投資増加、投資有価証券 評価増加など
(流動資産)	1,163.6	1,165.5	△1.8	△0.2%	
(固定資産)	948.0	845.7	102.3	12.1%	
負債	373.3	338.3	34.9	10.3%	<負債> (流動) 未払法人税増加(時期要因) など (固定) 長期繰延税金負債増加 など
(流動負債)	207.5	195.0	12.4	6.4%	
(固定負債)	165.7	143.2	22.5	15.7%	
純資産	1,738.3	1,672.9	65.4	3.9%	<株主資本> 当期: 純利益29.1億、配当△11.7億 自己株取得△7.6億など
(株主資本)	1,380.1	1,370.1	10.0	0.7%	
(その他包括利益累計)	186.9	130.2	56.7	43.6%	
(非支配株主持分)	168.8	170.2	△1.4	△0.9%	<その他包括利益累計額> 有価証券評価差額金増加など
(BPS(円/株))	5,417.03円	5,115.92円	301.11円		
自己資本	1,567.1	1,500.3	66.7	4.5%	
自己資本比率	74.2%	74.6%	△0.4pt		

7 連結CF概要

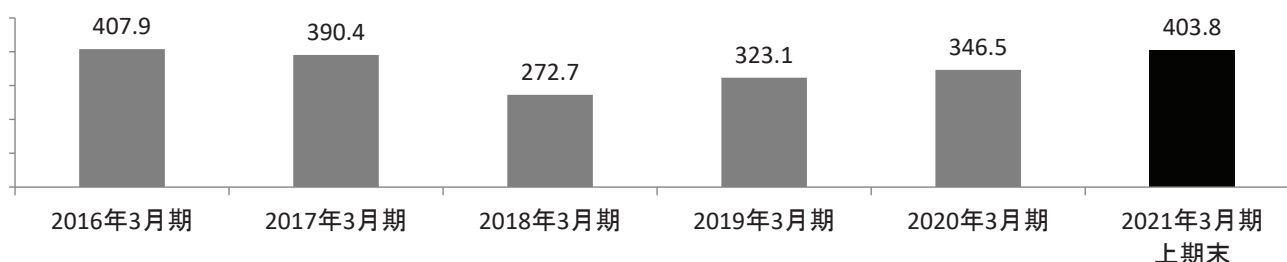
株式会社 淀川製鋼所

(単位: 億円(千万円未満切捨))

	当上期	前上期	前年同期比		特記事項 (記載金額は概略値)
			増減	増減率	
営業CF	88.2	△0.5	88.7	—	税前純利益増加、運転資本減少 など
投資CF	△7.1	△23.2	16.1	—	固定資産の取得は増加ながら 3ヶ月超定期預金の純減で支出減
財務CF	△24.0	△11.4	△12.6	—	当期: 配当△12億、自己株式取得△7 億、借入金純減△3億 など
現金及び同等物	403.8	285.8	118.0	41.3%	

(単位: 億円)

現金及び同等物残高



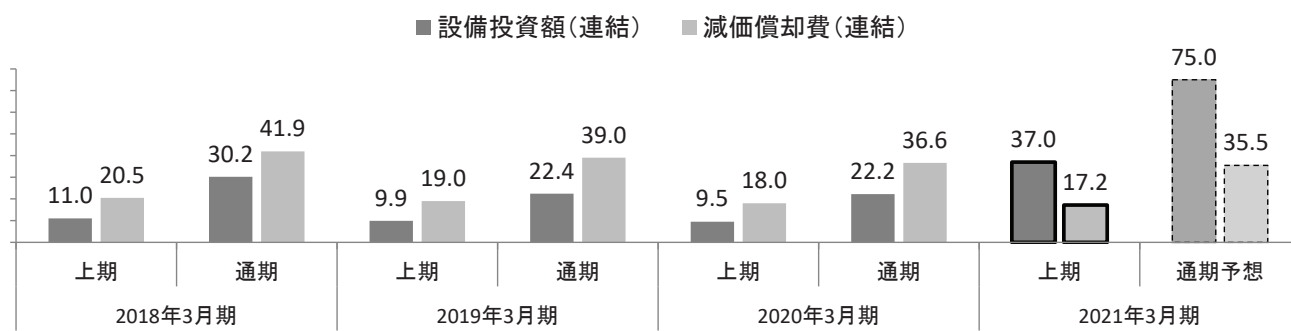
8 設備投資と減価償却

株式会社 淀川製鋼所

(有形固定資産のみ。建設仮勘定を含む資産計上ベース。単位:億円(千万円未満切捨))

	当上期	前上期	前年同期比		特記事項 (記載金額は概略値)
			増減	増減率	
設備投資(連結)	37.0	9.5	27.4	287.1%	福井ヨドコウ社新工場12億 (建設仮勘定)ほか
減価償却(連結)	17.2	18.0	△0.8	△4.4%	大きな変動なし
設備投資(個別)	21.0	6.7	14.2	210.7%	柏井社宅12億(建設仮勘定) ほか
減価償却(個別)	9.4	10.2	△0.7	△7.3%	大きな変動なし

(単位:億円)



9 連結設備投資概要

株式会社 淀川製鋼所

(単位:億円(千万円未満切捨))

	会社	案件	完成年月	総投資額 (資産計上ベース)
当期実施	淀鋼	柏井社宅建替(市川市)	2021年12月	26.7
	淀鋼	市川工場事務所棟建替(市川市)	2021年5月	9.9
	福井ヨドコウ	工場新設(第1段階)(坂井市)	2021年10月	51.1
今後予定	淀鋼	タレットパンチプレス更新(坂井市)	2020年12月	1.4
	福井ヨドコウ	工場新設(第2段階)(坂井市)	2022年秋	24.9

10 連結業績予想

株式会社 淀川製鋼所

(単位: 億円(千万円未満切捨))

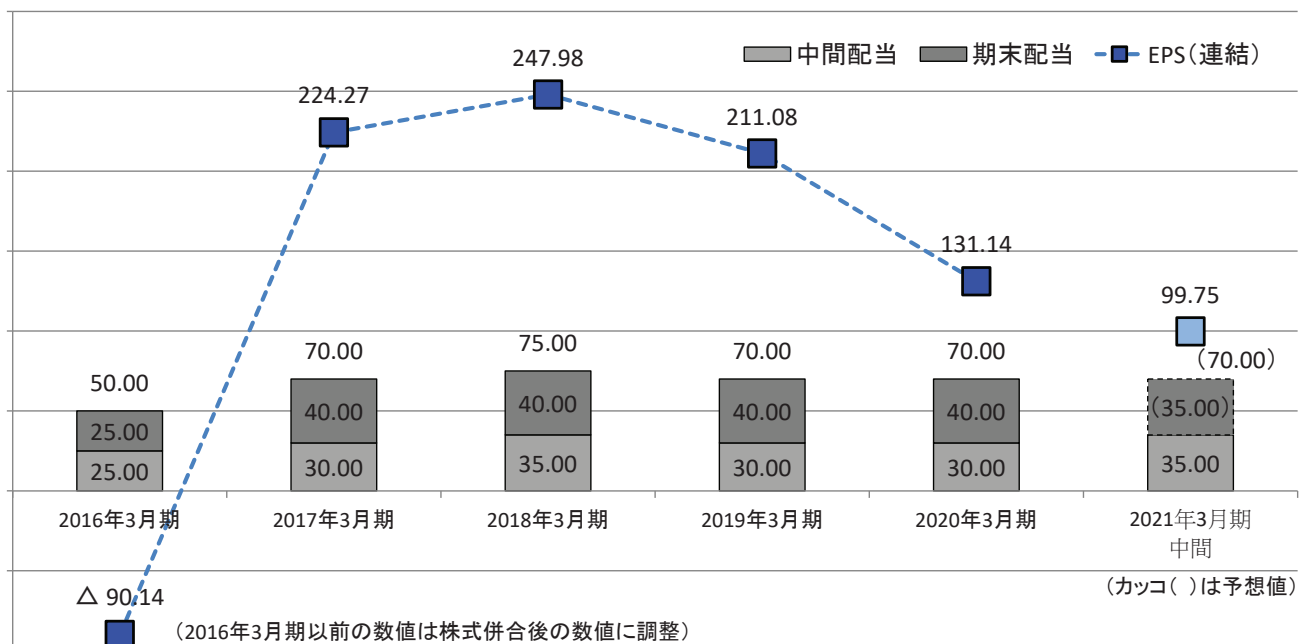
2021年3月期	通期 予想	前期比 増減	上期 実績	前期比 増減	(参考)		
					下期予想	前期比 増減	
連結	売上高	1,440.0	△100.6	693.9	△88.6	746.0	△11.9
	営業利益	58.0	3.1	30.5	1.4	27.4	1.6
	経常利益	72.0	△2.2	42.0	8.9	29.9	△11.2
	親会社株主利益	49.0	10.3	29.1	9.1	19.8	1.2
個別	売上高	930.0	△96.0	467.1	△67.1	462.8	△28.8
	営業利益	59.0	△0.4	35.8	6.1	23.1	△6.5
	経常利益	73.0	△4.6	47.5	12.5	25.4	△17.1
	純利益	△12.0	△57.2	△27.4	△50.8	15.4	△6.4

- 限定的と想定するものの新型コロナウイルスの影響が予想されること、コスト環境が厳しくなると想定されることから、下期の損益は厳しくなるものと予想

11 配当

株式会社 淀川製鋼所

(単位: 円/株)



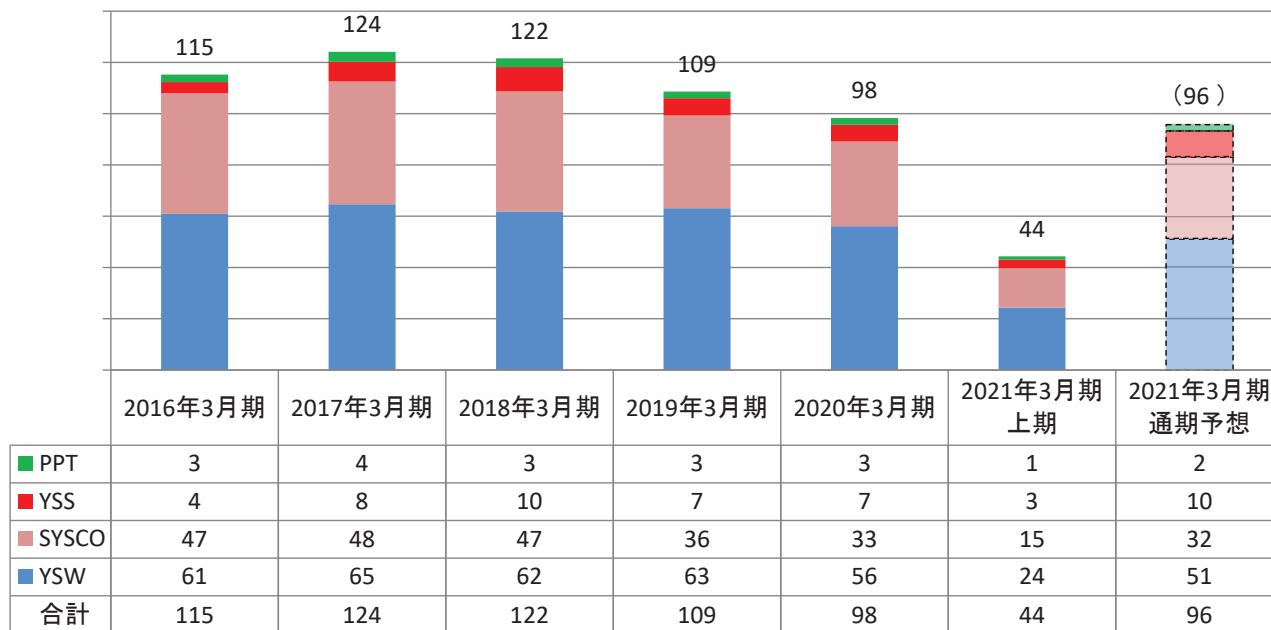
- 中間配当は35円といたします
- 期末配当予想を35円、年間配当予想を70円といたします

12 ご参考①

株式会社 淀川製鋼所

【グループ鋼板商品の一級販売量推移】連結消去は考慮せず

(単位：万トン)



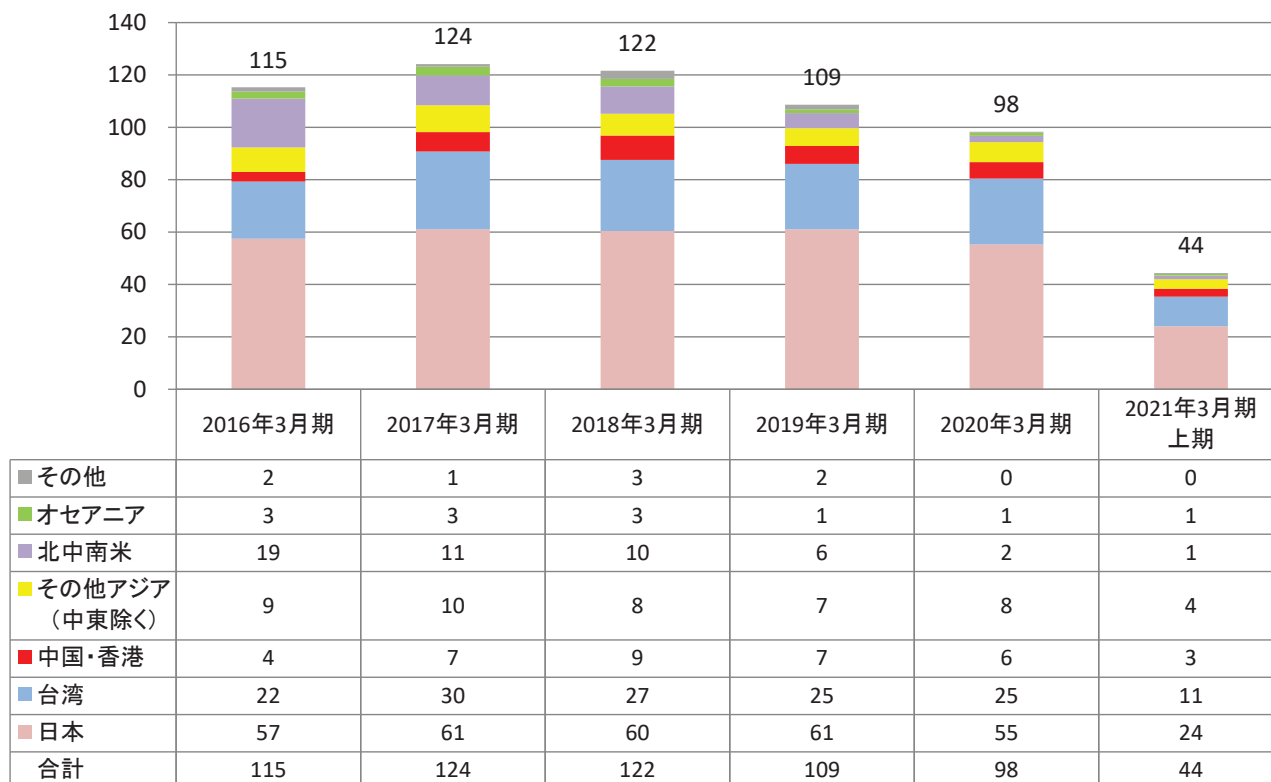
- 下期は新型コロナの影響が上期と比べ改善すると想定し、各社鋼板商品販売数量も改善傾向を予想

13 ご参考②

株式会社 淀川製鋼所

【グループ鋼板商品の向先別一級販売量推移】連結消去は考慮せず

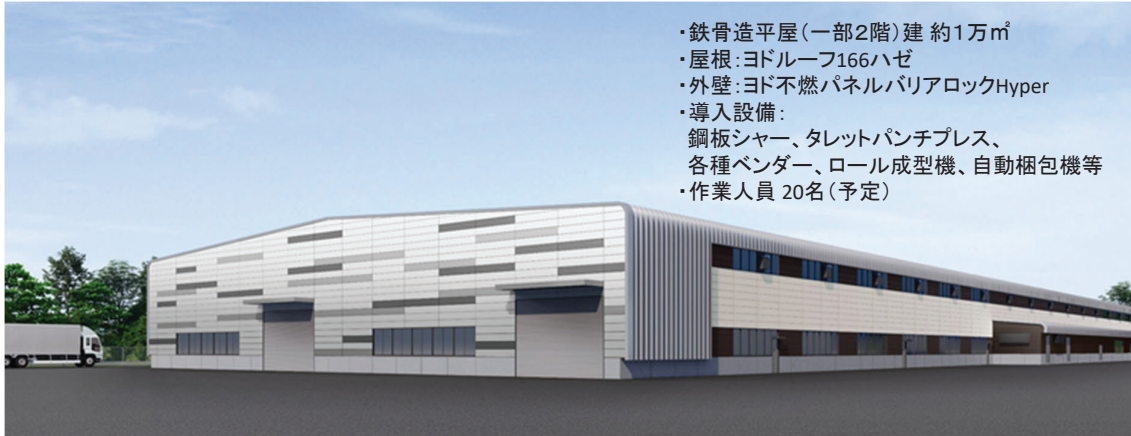
(単位：万トン)



14 その他トピックス

【エクステリア商品に係る生産・物流体制の再構築(進捗状況)】

- 2020年4月設立の福井ヨドコウ株式会社は、大阪工場より移管するエクステリア商品の新工場を建設中。(2021年10月第1段階を稼働予定)



- ・鉄骨造平屋(一部2階)建 約1万㎡
- ・屋根:ヨドルーフ166ハゼ
- ・外壁:ヨド不燃パネルバリアロックHyper
- ・導入設備:
鋼板シャー、タレットパンチプレス、
各種ベンダー、ロール成型機、自動梱包機等
- ・作業人員 20名(予定)

福井ヨドコウ新工場(第1段階)完成予想図

- このたび、現・福井事業所の機能を会社分割により福井ヨドコウに承継し、当社グループの建材およびエクステリア事業における生産機能の福井ヨドコウへの集約を進め、より効率的な生産体制を構築してゆく。

15 その他トピックス

【エクステリア商品に係る生産・物流体制の再構築(進捗状況)】

株式会社 淀川製鋼所			福井ヨドコウ株式会社
大阪工場 生産品目	ヨド物置エスモ		新工場建設中 (2021年10月稼働予定)
	ヨド倉庫 ヨド大型倉庫 ヨド自転車置場		
	ダストピット (集合住宅用)		新工場建設予定 (2022年秋稼働予定)
	ヨドハウス		
福井事業所 生産品目	ダストピット (小型ステーション用)		吸収分割にて承継 (2021年4月1日効力発生)
	サイクルスペース ほか		

16 その他トピックス

【現・福井事業所の概要】

正式名称	株式会社淀川製鋼所 大阪工場 製造部 福井事業所
所在地	福井県坂井市三国町新保
操業開始	1990年(平成2年)
事業内容	エクステリア商品、サイディング商品の製造・加工ほか
従業員数	26名(2020年4月現在)
生產品目	<エクステリア商品> ・ヨドハウス ・ごみ収集庫ダストピット(小型ステーション用) ・ヨド自転車置場・サイクルスペース <サイディング商品> ・ヨドホームサイディング
その他	太陽光発電売電設備(約2MW)

17 その他トピックス

【福井ヨドコウ株式会社の概要】

正式名称	福井ヨドコウ株式会社
所在地	福井県坂井市三国町新保
代表者	代表取締役社長 中野要一郎(当社常務執行役員)
事業内容	エクステリア商品の製造・加工ほか
資本金	1億円(当社100%出資)
設立年月日	2020年4月1日
対象商品 (大阪工場から移管分)	ヨド物置エスモ ヨド自転車置場 ヨド倉庫 ヨド大型倉庫 ゴミ収集庫ダストピット(Fタイプ、FWタイプ、Hタイプ)
予定投資額	約76億円 (建築関係31億円、設備関係45億円)
予定スケジュール	2021年10月稼働(ヨド物置エスモの生産) 2022年秋稼働(その他移管対象商品の生産)

株式会社 **淀川製鋼所**

淀川製鋼グループ 中期経営計画2022

2020年11月4日

2020.4.1 -
2023.3.31

YODOKO

淀川製鋼グループ 中期経営計画2022 Copyright(C) 2020 Yodogawa Steel Works, Ltd. All Rights Reserved.

長期ビジョン



■ 桜 (SAKURA) 100

2025年の当社創立90周年に向けて、更には100年企業への発展を見据えて、当社のシンボルマークである桜のように、持続的に成長いたします。

淀川製鋼グループ長期ビジョン

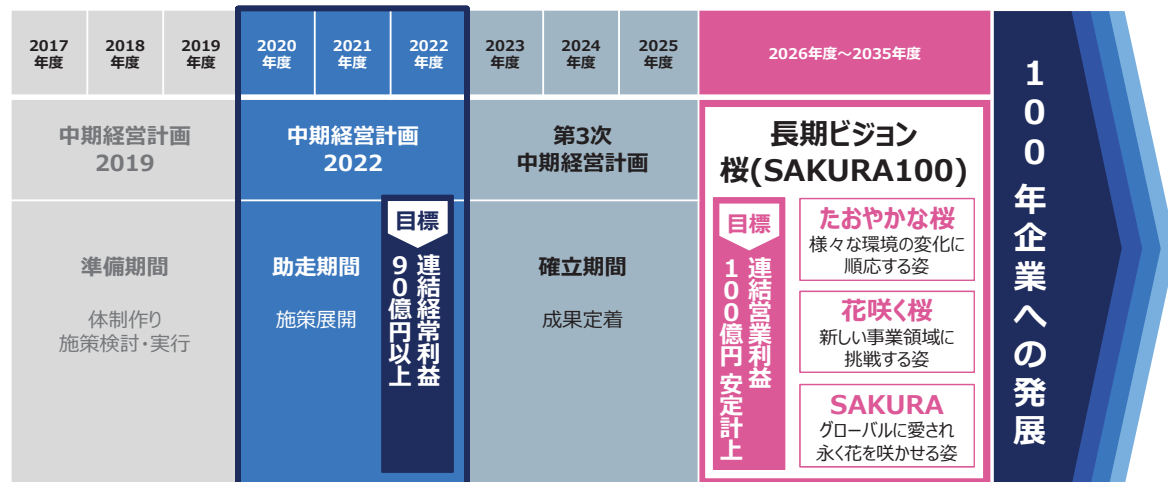


たおやかな桜	花咲く桜	SAKURA
<p>様々な環境の変化にたおやかに順応し、様々な個性を持つ桜のような姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 機動力（即応性・順応性）の発揮 ● ニーズに応える商品・サービス、新しい機能の提供 ● 安定した収益構造の確立 	<p>毎年新しい花を咲かせる桜のように、新しい事業領域に挑戦しつづける姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 様々な分野で事業領域を拡大してきた伝統 ● 新しい事業分野の開拓に挑戦 ● 次世代を担う事業領域の確立 	<p>グローバルに愛され、永く花を咲かせるSAKURAのような姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 様々なステークホルダーとの共生 ● 社員が自信と誇りを持てる企業 ● グローバル市場におけるブランドとステータスの確立

淀川製鋼グループ 中期経営計画2022



■ 本中期経営計画期間の位置付け



淀川製鋼グループ 中期経営計画2022



基本戦略

前中期経営計画の主要施策に対する成果を基礎として、以下の6項目を基本戦略とし、長期ビジョンの達成に向けた施策展開に重点を置きます。

A 機動力を活かした収益構造の強靱化

- ビジネスモデルの深化
- ものづくり力の底上げ

B 新しい分野への挑戦

- 既存事業を基盤とした新分野の開拓

C 持続可能な経営基盤の構築

- 将来を見据えた積極的投資と資本効率向上
- 次世代を担う人材の育成と組織力強化
- 全てのステークホルダーとの共生

淀川製鋼グループ 中期経営計画2022 Copyright(C) 2020 Yodogawa Steel Works, Ltd. All Rights Reserved.

淀川製鋼グループ 中期経営計画2022

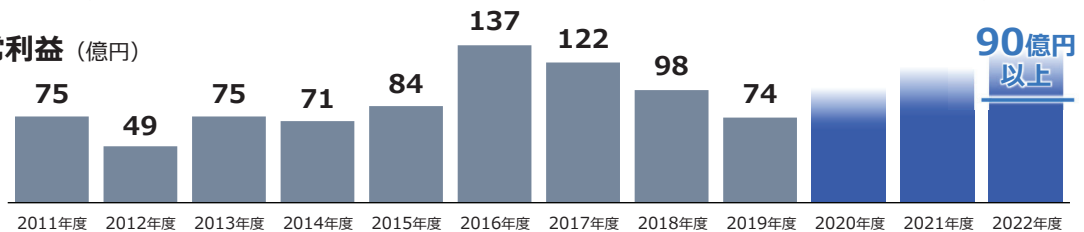


中期経営目標

》 連結経常利益 90億円以上 (2022年度)

(主に海外の事業環境悪化の影響により約30億円の不振れを想定も、自助努力として20億円を上積み)

■ 経常利益 (億円)



(単位: 億円)

	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
売上高	1,527	1,410	1,575	1,758	1,592	1,542	1,738	1,674	1,540
営業利益	64	36	61	34	73	131	108	58	54
経常利益	75	49	75	71	84	137	122	98	74

淀川製鋼グループ 中期経営計画2022 Copyright(C) 2020 Yodogawa Steel Works, Ltd. All Rights Reserved.

淀川製鋼グループ 中期経営計画2022



■ 資本政策

優先的な 資金使途	<ul style="list-style-type: none"> ○ 既存事業における競争力強化 ○ 新しい事業領域の開拓
株主還元	<ul style="list-style-type: none"> ○ 業績に応じた配当金の支払いを重視 年間1株あたり50円以上を維持 連結配当性向年間30%~50%程度を目標
資本効率	<p>資本コストを上回る資本効率を実現するため</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 既存事業における投下資本利益率の向上 ○ 積極的投資により非事業資産を事業資産へ組み換え

淀川製鋼グループ 中期経営計画2022 Copyright(C) 2020 Yodogawa Steel Works, Ltd. All Rights Reserved.

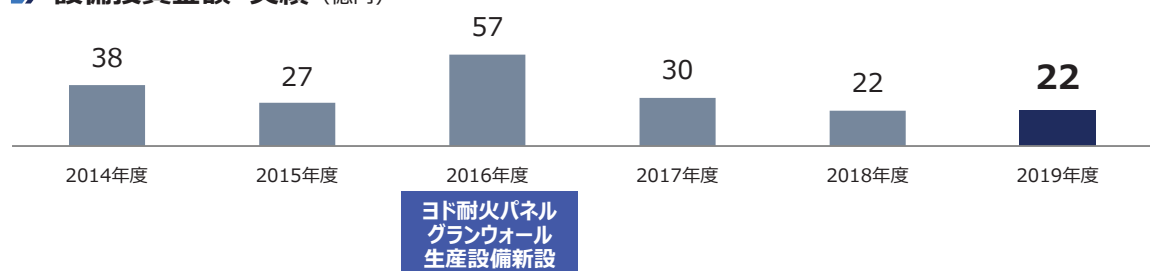
淀川製鋼グループ 中期経営計画2022



■ 設備投資計画

連結総投資額 (2020年度~2022年度の3年間)		150億円~200億円
【内訳】	競争力強化 (生産効率・品質向上やコストダウンなど)	(75億円~125億円)
	既存事業基盤の維持	(75億円)

▶ 設備投資金額 実績 (億円)



淀川製鋼グループ 中期経営計画2022 Copyright(C) 2020 Yodogawa Steel Works, Ltd. All Rights Reserved.